多少ブサイクだけどエッチで可愛い発情期の姪っ子のハナちゃん小○生

推定
141cm
1●歳

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

俺には姉貴の一人娘の
「ハナちゃん」という姪っ子がいる
姉貴夫婦は近所に住んでいるのもあって
よく実家でもある俺のところへよく
ハナちゃんを預けに来るのだが
ハナちゃんは男の子ように見えるが
小さい時からとても甘えん坊で
柔らかいものが大好きらしく
誰かに抱き着く癖があったり
俺にもよく懐いてくれていた
しかしそんなある日のこと
いつものように一緒にアニメを
見ているとハナちゃんが突然
「たっくんうち、すごいこと覚えてん」
・・・と、自慢げに語りだしだ
AMIDAS

ハナちゃんは何の躊躇もなく
スカートの中に手を突っ込んで
おまたをいじり始めたのだ
この時はキッチンに母さんがいたからビビったけど
今思うと本当にスリルのある体験だったと思う
「これやるとなぁ？めっちゃ気持ちいいんよ」と
ハナちゃんはいつも俺に見せる笑顔と一緒に
ちょっとだけ違う恍惚な表情で
じっくりこしょこしょと股間をいじっていた
おっ…
おおっ…
もぞっ
くにゅ
くにゅっ
もぞっ
どこで覚えてしまったのか分からないが
俺は母さんの視線を警戒しつつ
とにかく小学生のオナニーをこんな間近で見れることに
感謝をしながら一生懸命まんこをいじる
ハナちゃんをじっくりと観察した

それからだった
ハナちゃんに性的な知識を教えてあげるようになったのは

とにかく俺は、時間をかけてでもいいから
警戒されることなく小学生の身体をいじったり
性的なイタズラがしたくて堪らなかったから

ハナちゃんが嫌がらない範囲で
身体を見せてもらったり
オナニーのやり方を教える代わりに
オカズの提供のお願いをしたりと
どんどんエスカレートしていった

しかし、ハナちゃんはとても
好奇心旺盛だったからか
俺の要求を嫌がることもなく
むしろ喜んで呑んでくれていた

ハナちゃんの裸の写真は今となっては
外付けハードを交換しないといけないくらい
残したんじゃないだろうか

そんなある日のこと…ハナちゃんから
「たっくんのちんちん見せて！見たい！」
と、せがまれたので
バレないよう二階のトイレへ隠れるように移動し
ハナちゃんが望むようにちんぽを見せることにした
驚いた様子でまじまじと見つめ
腫物を触るようにゆっくりじっくりと
優しく触ってくれたのを今でも覚えている
ハナちゃんは最初無邪気に喜んでいた様子だったが
初めて見る大人の勃起したちんぽを見て
明るく無邪気な表情が一変した
ハナちゃんはこの時から毎回うちに来るたび俺に
ちんぽを見せてほしいと催促するようになった

姪にちんこを見せてからというものの
ハナちゃんはめちゃくちゃ興味を持ったのか
ある日のこと
流れで舐めさせてほしいと言った
ハナちゃんに甘えて、パンツと交換を条件に
ついに舐めてもらうことが出来た
ハナちゃんは大きいちんぽは
舐め慣れていないのか
最初丁寧に丁寧に細かいところを舐めていただが
どんどん下品にしゃぶり始めるハナちゃんを見て
俺は興奮を抑えられず度々ハナちゃんの
パンツの匂いを嗅いで果てそうになった
少しでも長く舐めてほしかった俺は
我慢に我慢を重ねて
容赦なくちんぽを貪るハナちゃんの
鼻息を聞きながらこの素晴らしい光景を
じっくりと堪能していた
最後の方はもうがっぽりと咥えて
一生懸命大人ちんぽを頬張っていて
よりブサイクになっていた
ハナちゃんだったが…
「学校の男子よりおっきい」
という言葉を聞いて俺は
嬉しさと気持ちよさで果てた
フ――ッ…♡
にちゃ…♥
んふ――…♡
フ――…♡

ハナちゃんとエッチな関係になって二ヵ月経った頃だったか
ハナちゃんからセックスしたいと言われた俺は
思い切って田舎の無人ラブホに行くことにした
それもハナちゃんがラブホに行ってみたい
とのことだったから前もって無人のラブホをリサーチし
実行した日には、夜に買い物を行くと言って
どうにか二人で家を抜け出したのだ
生まれて初めてのラブホの動揺したのだけれど
ラブホに姪っこと来ているという事実が
俺の脳をバグらせていった
初めてのラブホに無邪気にはしゃぐ
ハナちゃんを見て俺は異様なほど
興奮していたのだと思う
入ってすぐ貪るようにキスをして
狂ったようにハナちゃんの服を
脱がしたのだけは覚えているが
この時のことはあまり記憶にない

俺はその日ハナちゃんの小〇生まんこで
童貞を卒業させてもらった
お互いに興奮し過ぎていたのだろう
今でも頭に焼き付いて思い出す度に
勃起してしまう程衝撃的で激しい
獣のようなセックスだったと思う
フ――――……
ヒュ――――……
ヒュ――――……
ラブホに入ってすぐの元気で明るい
ハナちゃんはもうそこにはいなかった
獣のように喘ぐハナちゃんを見て
俺は理性を失ったように幼く繊細であろう蜜壺を
激しく突いてかつてない程の射精感を体験したのだ
ﾋｸﾝｯ
ﾋｸﾝｯ
俺は出したはずなのに
まだ激しく勃起したちんぽを
しごいて残ったザーメンをお腹へ出した
後から聞いた話だったが
ハナちゃんは同級生ですでに
処女は卒業していたらしい
フ――――……
汗だくになってシーツがぐしょぐしょに
なっているのが分かってから
ハナちゃんが小刻みに息を切らして
呼吸を整えているのが分かった
フ――――……

それからというものの俺たちはタガが外れたように
ハナちゃんがうちに来る時は必ずセックスをするようになった
親の目を盗んで寝室でセックスしたり
ハナちゃんが行きたいと言ったらラブホでセックスしたり
もはや場所を選ぶことなどしなくなっていたと思う
ハナちゃんとセックスしては遊んだり
やりたい放題だった俺は
調子に乗ってハナちゃんに今度
クラスメイトとセックスしてるとこを
撮らせてよと言ったら
「それ面白いかもしれんね！」と
ハナちゃんは笑ってくれた

しかしハナちゃんは
ラブホでのセックスが
とても気にいったのか
かなりの頻度で利用する
機会が増えたと思う
思い切り声を出しても
大丈夫な環境が気に入ったのだろう
ぐぎっ
ひっ
おぉっ♡
んおぉっ♡

ハナちゃんはとにかく
下品に喘ぐし声も大きいので
俺も実際すごく助かるから
家でするより金はかかるが
そんなの気にならない程度に
ラブホの環境を気にってはいる
自宅で親にバレないように
立ち振る舞うのは
中々大変だからな…
はむっ
ちゅっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
んっ

そういえばハナちゃんは
まだ初潮を迎えて
いなかったらしく
律儀にゴムをつけていたのが
馬鹿らしくなったのだけど
ゴムありと無しの差が
分かっただけでもまぁ
儲けもんだと思って
最近では生の喜びを味わっている
おおっ♡
うあぁっ♡
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ
んおぉっ

最初のキツキツだった
ハナちゃんの小学生ミニまんこも
しっかり俺の形になったのか
奥を突く度にまさに獣のように
喘いで気持ち良さそうに吠えるんだ
その声を聞く度に俺のちんぽは
大きく膨らんで何度でもハナちゃんの
中に大人ミルクを吐き出した
喘ぐ度にちょっぴりブスになった
ハナちゃんの表情もまたセクシーで
俺はそれを見る度激しく犯すのだ
獣のように交わる感覚が脳を溶かして
俺もまた獣のように無心で腰を動かす
なんっ
なんっ
なんっ
なんっ
なんっ
なんっ
なんっ
ぉっ♡
♡
ぉぉぉっ♡

しこたま中出し交尾をした後
ハナちゃんはほぼ毎回
お掃除フェラをしてくれる
ちゅ…!
ん…
んぶ…
ちゅ…
はぷ…
ちゅ…
ゴムありだったりぶっかけたり
中出し以外の時はあまりしてくれないのだけれど
中出しした時はほぼ必ずというくらい
ハナちゃんは献身的にお掃除フェラをする
自分の匂いと愛液でべたべたになった
ちんぽにしゃぶりつきながら
スケベな顔で俺を愛おしく
見つめてくれるハナちゃん
それはもう、完全に子供の笑顔ではなく
「メス」の顔をしていて
俺はその顔みる度に
いつか孕ませてやりたいと
強く願うのだ…

それから数ヵ月…
ハナちゃんとの肉体関係も半年は経つだろうか
ハナちゃんは俺と交尾する度どんどん
女の子らしくなっていって
最近では短くしていた髪も伸ばして
より女の子らしさが出てきたと思うが
それでも無邪気て甘えん坊なところは変っておらず
ふざけてちんこで遊ぶ姿は変っていない
そんなハナちゃんとのこの関係が長く長く
続いたらいいなと思っている
今度は大人の玩具の使い方と
アナルセックスも教えてあげたいから…♪